

2020年9月7日

後期授業に向けて

医学部長

医学部における後期授業について、このたび面接授業の再開となりましたことをお伝えします。

学生の皆さんの中には、「前期に遠隔授業が上手くいったのだから、後期もこのまま遠隔授業を続けられれば十分ではないか。」という考えがあると思います。

この考えは、仮に来年の3月でコロナウイルスパンデミックが終息することが確定しているなら、確かに合理的な考えです。しかし現実はどうでしょう。私たちは少なくともあと数年間、コロナウイルスと共存して生活することを余儀なくされています。この状況は医学・看護学教育も同じです。パンデミックが終息する数年後までこのまま遠隔授業を続けることが、果たして合理的な選択でしょうか？

医学・看護学教育は、言うまでもなく現場（リアルワールド）で実際に学ぶことを重視します。授業の他に様々な実習があり、高学年では附属病院や関連医療機関等での生きた臨床・臨地実習を行います。このため、私たち教員、皆さんたち学生の双方とも、コロナウイルスパンデミックを前にいつまでも逡巡し、ウェブ教育に留まっているわけにはいきません。既に医学科5年次生は7月6日より臨床実習を開始していますし、看護学科3年次生は9月23日より臨地実習を開始予定です。また、医学科・看護学科1年次生も8月19日より一部の実習を開始しました。

では面接授業をあえて再開する意味はなんでしょうか？授業の目的が単に知識を得ることだけなら、遠隔授業で十分でしょう。しかし面接授業には、知識の吸収だけに留まらない様々な意味があると思います。まず第一に、様々な実習で指導を受けることになる教員の顔や声を覚え、考え方を知り、皆さんと教員との絆を深めるまたとない機会になります。また、教員のみならずクラスメートと同じ時間を過ごすことにより、“人に共感する心”を育むと共に、母校愛も醸成することができます。前者が、“患者さんの気持ちを理解でき、患者さんの立場に立てる”医師・看護師に不可欠なことは言うまでもありません。加えて毎日規則正しい時間に登校し、決められたスケジュールをこなすことにより、医療者に不可欠な“時間をきちんと守る習慣”を身につけることができます。私たち教員は、この様な意義を重視し、面接授業の再開を決断しました。

後期には授業だけが予定されているわけではありません。前期で実施できなかった実習・演習、後期に実施予定の実習・演習、研究室配属など、皆さんが医療者になるために必ず学修しなければならない科目が多く計画されています。現在、面接授業と遠隔授業をミックスし、様々な実習を織り込んだ各学年の時間割表を作成中です。また、様々な感染防止策、不測の事態への柔軟な対応策も検討、相談窓口も用意しています。これらの詳細は近日中にお知らせします。

さらに部活についても、後期からの再開に向け、現在全学で検討しています。医学部としても、再開に向け問題点を詰めていきます。ただし再開する場合は、授業と同様、各部活での十分な感染対策が求められます。

医学・看護学教育を単なる知識の吸収に矮小化しないため、私たち教職員、皆さんたち学生が一致団結して、これまで当たり前に行われてきたキャンパスでの医学・看護学教育を取り戻していきたいと思っています。様々な不安や特別な事情のある学生さんは、どうぞ遠慮なく学務課に相談して下さい。

今後の予定：

- ・9月11日（金） 日数表発表（予定）
- ・10月1日（木） 後期授業（面接または遠隔）開始

※後期授業受講にあたり必要となるその他の情報については、授業開始までに、原則としてオンライン掲示板または学年代表経由により連絡予定